

令和6年度市政への参加・協働事業調査 集計結果

1. 回答数

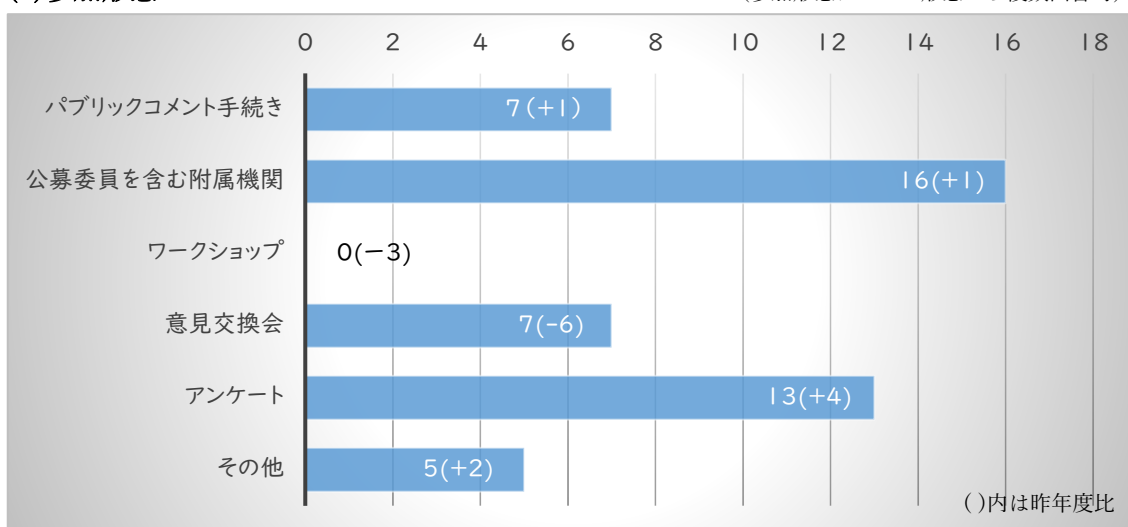
調査内容	回答数
市政への参加	47 事業 (26 部署) [±0]
協働事業	289 事業 (56 部署) [+39]

[]内は昨年度比

2. 市政への参加

(1)参加形態 n=47

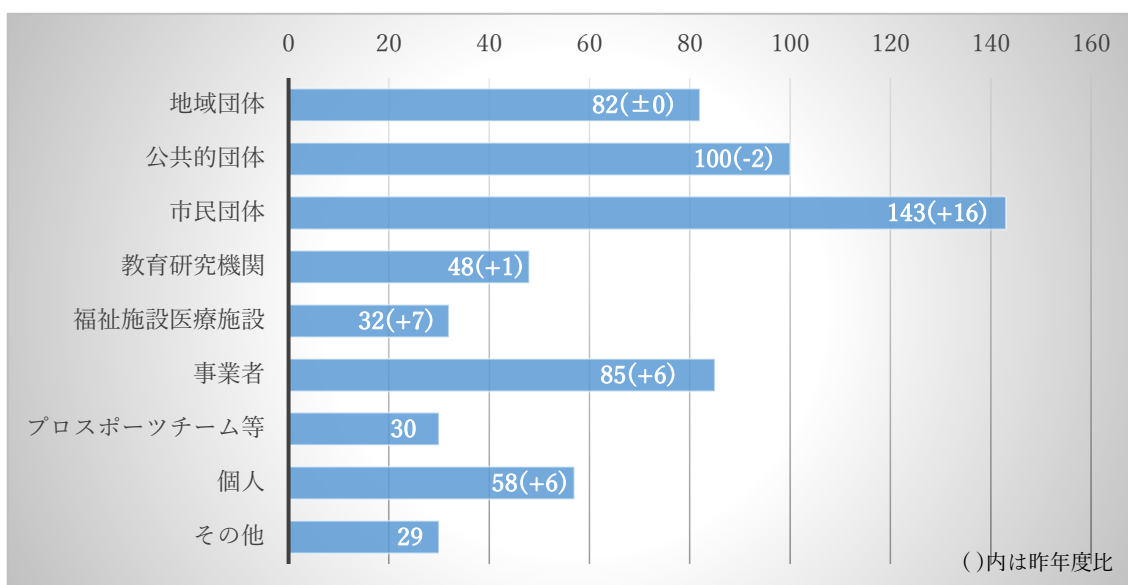
(参加形態は6つの形態から複数回答可)



3. 協働事業

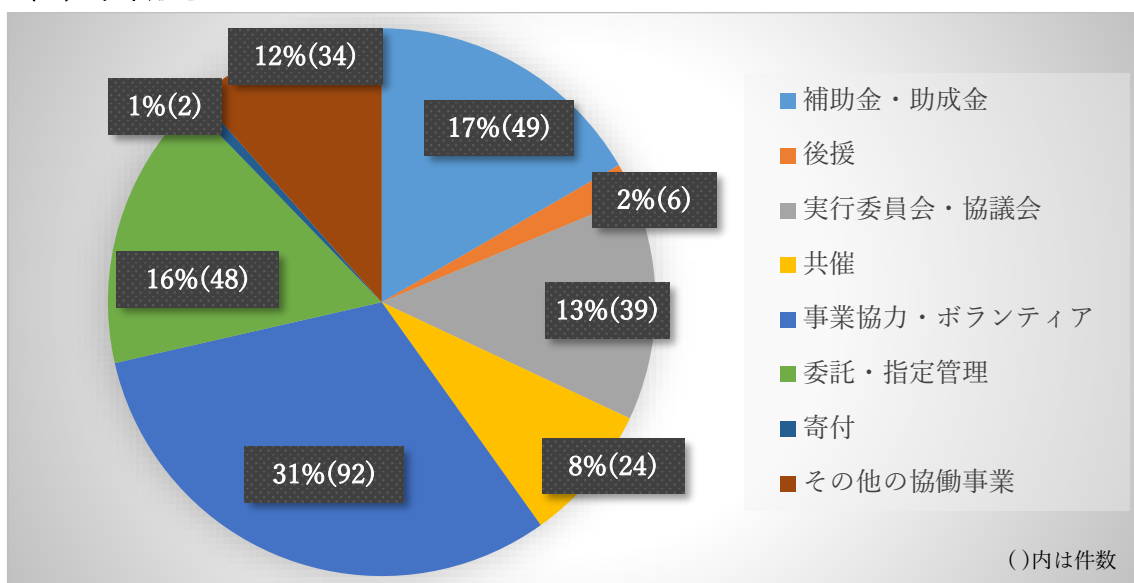
(1) 協働先分類 n=289

(協働先は9つの協働分類から複数回答可)



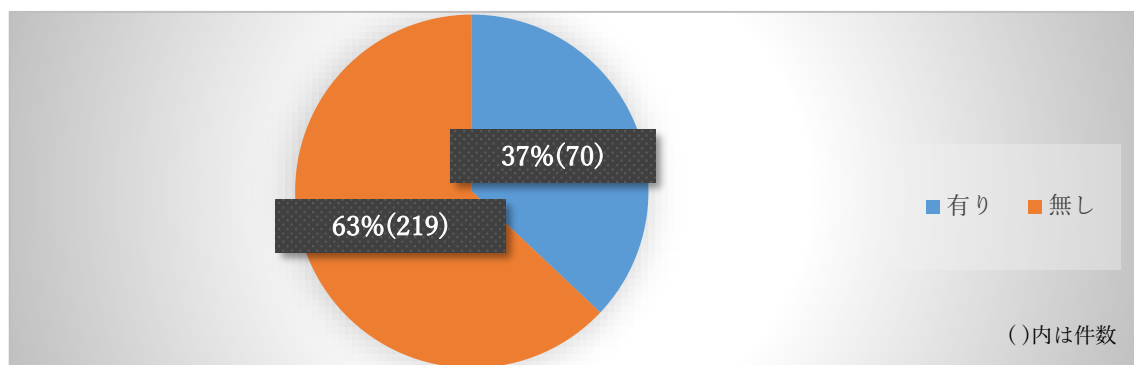
※プロスポーツチーム等は今回の調査で新たに追加した項目

(2) 事業形態 n=289



※寄付は今回の調査で新たに追加した項目

(3) 船橋市総合計画実施計画（令和7～9年）への掲載有無 n=289

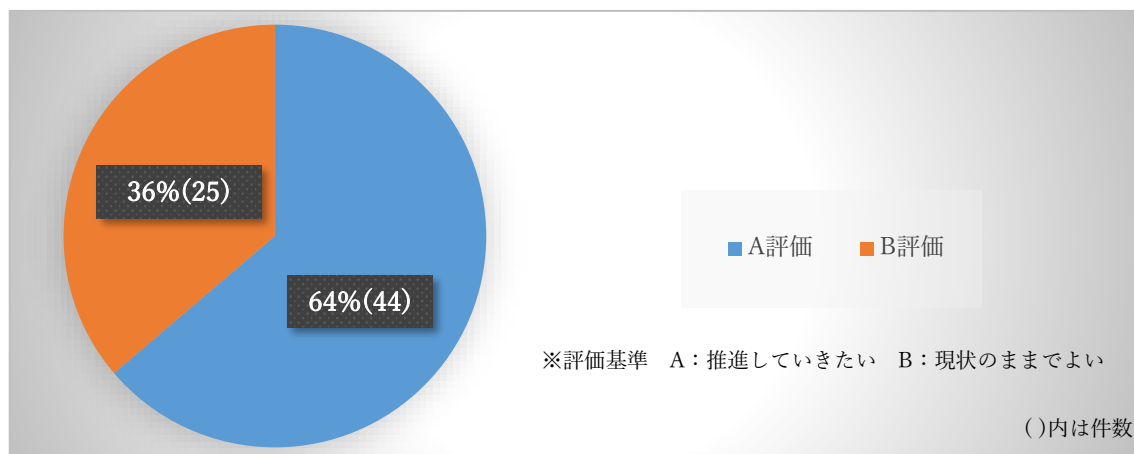


(4) 協働を進めていくプロセスについて（回答対象：実施計画に掲載が有る事業） n=69

※評価については、各担当課の自己評価

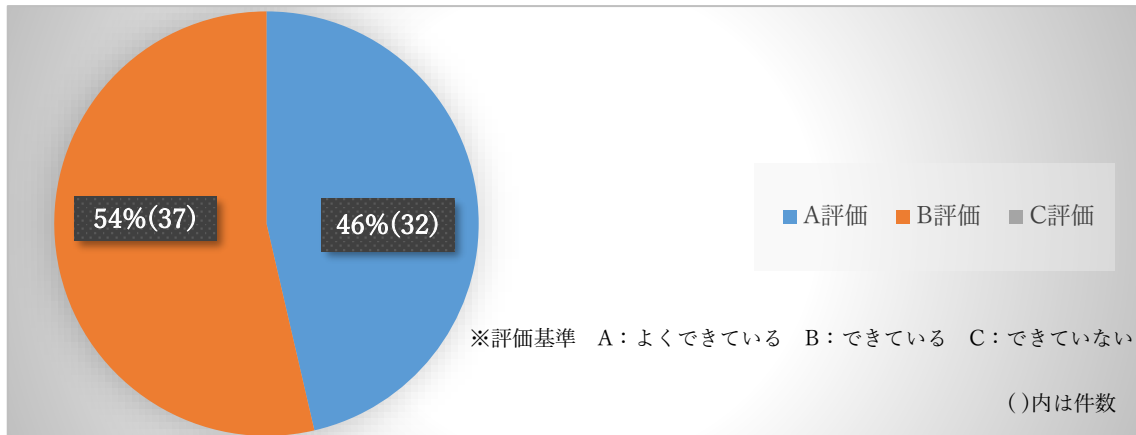
（廃止した事業は除く）

1. 協働意欲



※評価基準 A：推進していきたい B：現状のままでよい

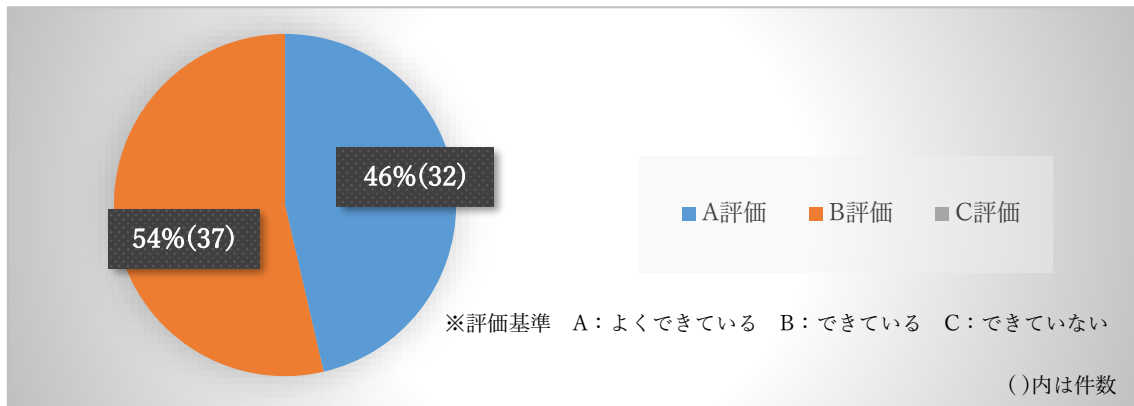
2. 目的・目標の共有



[特記事項]

- ・本市とパートナー事業者・委託事業者等と定期的に協議・ミーティングを行い、取組状況・進捗を共有している。
- ・委託法人との定例会によるタイムリーな情報共有を通じて、地域課題の共有や対応水準の均一化を図っている。
- ・毎年の協議会・活動報告会で、各事業の実施結果・計画・目的等を共有し、委員から意見聴取している。
- ・毎月の生活支援コーディネーター連絡調整会に参加し、目標等について説明を行っている。
- ・年度当初の公民館担当者会議・地域学校協働活動推進員会議等で、目的・目標を共有し事業に活かしている。
- ・イベント・事業の事前打合せ（約半年前から月1回以上）で、目的・目標を確実に共有している。
- ・研修・講演会の前に、目的・目標・依頼業務内容を共有している。
- ・委託業務について、数値目標や内容を定期的に聴取している。
- ・年度当初に災害時看護職ボランティアへ訓練参加の案内文を送付し、訓練目的等を共有している。
- ・調査場所にて現地レクチャーを行い、目的等を共有した。
- ・目標等をまとめた資料を作成し、関係者に共有している。
- ・文書・依頼文・回覧チラシ等で、事業の目的を定期的に周知している。
- ・補助事業の要綱や事業趣旨を記載した要項を作成し、目的を明確化・共有している。
- ・事業計画等に掲載する目標を事務局と協議し、認識を共通にしている。
- ・委員会の目標は事業ごとに成果を測ることが難しいものも多く、できる限り目標設定・共有に努めている。
- ・「(仮称) ふなばしメディカルタウン実現方針」を船橋市海老川上流地区土地区画整理組合と共同策定し、「ふなばしメディカルタウン構想」の実現を目指している。
- ・対象プログラムは事業の趣旨に賛同した団体の申請を受けて決定するため、事業開始時点から目的・目標が共有されている。
- ・毎年「クリーン船橋市民会議」を開催し、目的・目標を共有している。

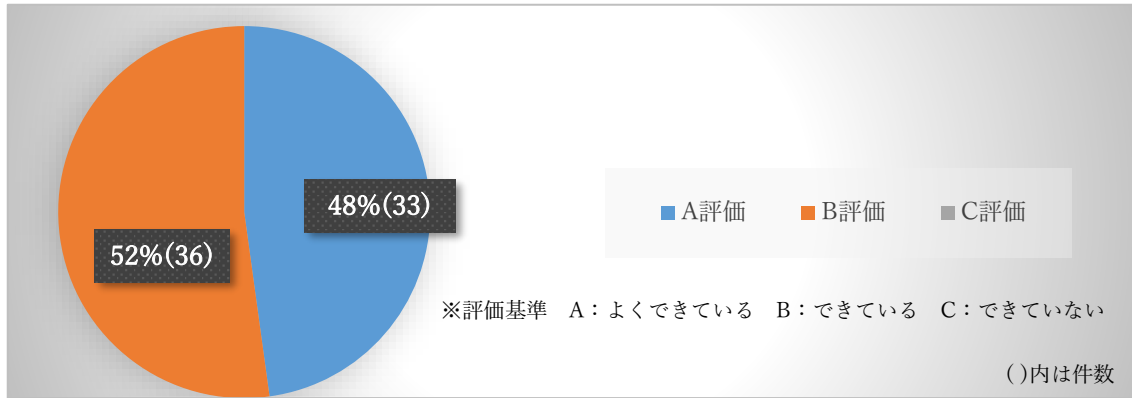
3. 良好な関係づくり



[特記事項]

- ・年複数回の総会・幹事会・定例会の開催や個別連絡を通じ、進捗報告・課題の共有・意見交換を行っている。
- ・市と委託事業者で定期的にミーティングや個別ケース検討会議を実施し、進捗共有・意見交換をしている。
- ・委託法人との定例会により、顔の見える・風通しの良い関係づくりを行っている。
- ・利用者からの要望は都度共有し、相互に対応している。
- ・地域イベント等に際し、用事の有無にかかわらず第2層生活支援コーディネーターとコミュニケーションをとるよう心がけ、同行参加も行っている。
- ・就労移行支援事業所連絡会への参加により、顔の見える良好な関係づくりを行っている。
- ・年1回の活動報告会を実施し、各団体の課題に応じた助言等を継続的に行っている。
- ・平成31年度から市民団体等を継続的に募集・参加させることで、長期的な相互理解を図っている。
- ・事業実施前後に対面・メール等で打合せ・振り返り・反省会を行っている。
- ・研修・講演会の終了後、運営面での意見を聴取している。
- ・災害時看護職ボランティアに訓練の役割を事前説明し、より実効性のある訓練を実施している。
- ・定期的に現地確認及び意見交換を行っている。
- ・定期的に連絡を取り合うとともに活動場所への訪問や年1度のアンケートで意見を伺っている。
- ・ごみの減量・リサイクル推進について普段から連携して周知啓発し、ごみ収集の諸問題にも連携して取り組んでいる。
- ・市・事務局・関係機関が日ごろから相互にコミュニケーション・連携を図り、良好な関係づくりを行っている。
- ・対面での打合せやこまめな連絡のやり取りを重ねながら事業を進めている。
- ・複数回の会議・打合せで対面の機会を多く設け、良好な関係づくりを推進している。

4. 相互に強化し合う取り組み



[特記事項]

- ・委員が参加できる事業に積極的に参加を依頼している。
- ・事業スケジュールを共有し、協議すべき時期・項目について共通認識を図っている。
- ・市事業と併せてパートナー事業者がサイクルポートの設置を進め、市全域での設置数拡大を図っている。
- ・第2層生活支援コーディネーターへの個別訪問で意見交換・情報共有を行い、今後の活動・目標を決めている。
- ・市としてもできる支援を適宜委託事業者に提案し、委託事業者任せにならないよう努めている。
- ・委託法人が主催する研修会・市の主催イベント・各種会議体への相互参画により、双方の支援の質と連携の強化を図っている。
- ・年1回の活動報告会で課題・解決案等を情報交換し、事業を推進している。
- ・行政が計画策定・市民への周知を担い、協働先が各サービスの一環としてプログラム実施・チラシ配布等を担うことで、互いの強みを活かした協働を実現している。
- ・当事者の視点を取り入れながら事業運営の工夫を行っている。
- ・役割分担を幹事会・担当者との話し合い・ボランティアの意見を踏まえて決めている。
- ・地区自治会住民に模擬患者を、災害時看護職ボランティアに看護師役を担ってもらうことで、災害時と同様の状況を再現した。
- ・エコカレッジ事業への協力が団体への新規加入につながる仕組みを構築している。
- ・市が踏査場所の調整を担うことで団体の円滑な調査につながり、充実した調査結果を得ることができた。
- ・ごみの減量・リサイクル推進について普段から連携して周知啓発し、ごみ収集の諸問題にも連携して取り組んでいる。
- ・居住支援制度の改善・見直し等を事務局と協力して進めている。
- ・お互いの資源・強みを活かして役割分担し、事業を効率的に推進している。
- ・学校・地域・市民団体・ボランティア等が各々の強みを活かしながら活動・イベントを作り上げ、参加者全員の満足につなげている。

5. その他、協働で実施してよかったことなど（自由記述）

- ・最新の知見・実践事例を海老川上流地区のまちづくりに反映させ、「ふなばしメディカルタウン構想」の実現に寄与している。
- ・サイクルポートの相互設置拡大により利用回数・利用者数ともに増加し、自転車活用の促進に寄与している。
- ・NPO 団体や患者会がピアとして関わることで参加者の安心感につながり、事業の実効性を高めている。
- ・市民団体の専門的な知識等を事業に活かすことでイベントの幅が広がっている。
- ・学校と地域が連携した活動が増加している。
- ・市民団体・ボランティアとの協働により多様な視点で子供たちにアプローチできている。
- ・大学教授・大学生による専門分野の講座実施によって、豊かな体験機会を提供できている。
- ・様々な団体と協力し多様なコーナーを実施することで、少年少女健全育成の推進に寄与している。